



はじめに

岐阜市には、金華山、長良川をはじめとした誇るべき自然環境が多くあります。その一方、生活環境の変化、生活基盤を支える様々な整備により、貴重な自然環境が減少しているのもまた事実です。このような状況の中、現在ある岐阜市の貴重な自然環境を、次世代に残し伝えることが、私たちの役割です。

そのための第一歩として「**岐阜市自然ふれあい地域ビジョン**」策定に取り組みます！！



雑木林をテーマにワークショップ（10月9日開催）

- ・里山整備活動、人工林間伐体験等の雑木林活動における課題の確認
- ・“子どもに雑木林”は“大人の雑木林”から
- ・雑木林「の」と雑木林「で」！！

今回は、自然ふれあい地域ビジョンの活動とタイアップして行った「第13回 全国雑木林会議2005 ぎふ」での様子を報告致します。この場では、10月8日に行われた里山整備体験会からみられた市民参加型の自然保全活動の課題やその方向性について報告され、参加者の皆さんと共に多くの意見を交換し知恵を絞っていきました。



雑木林活動における課題とは??

「森と水辺の技術研究会」の野村さん、「調布市人間樹林の会」の根本さんからは、里山整備体験会をはじめ、ヒノキ人工林の体験会、私有林を活用した里山整備活動、その他の環境教育の場を含めて様々な視点から自然環境と関わる活動が持つ課題について報告をしてもらいました。

その報告では、

1. 地域の里山を守る上での学校教育機関（中学校）の協力体制の構築の効果の重要性
 2. ボランティアベースで行われる間伐イベントによる人工林整備の重要性の啓発効果
 3. 私有林を整備する際の、整備団体自体の継続性・確実性を担保することの重要性
- について、報告がされました。

その他にも、植生調査、埋土種子の調査等専門的な知識を要する取り組みについても、



一般の人々が継続して取り組むことによりスキルが向上し、確実に専門的な技術が身に付いているという報告もされました。私たちも保全活動を行う上で、専門的なスキルを磨くことの重要性を感じることができました。

“子どもに雑木林”は“大人の雑木林”から

「ふるさと塾洞戸村」の浦崎さんからは、御自身の教諭としての経験から、人づくりと自然体験における留意点について報告してもらいました。

学校と共に活動を行おうとする場合は、その活動自体と一緒に活動する子ども達に対して、どのような目標（出口）があり、またその目標に対してどのような方法（手立て）をとることができるのか明確にすることが重要であるという指摘がありました。

また、活動の取り組みにおけるキーワードとしては、**段階的に（単直×）、継続的に（単発×）、有機的に（単品×）、協調的に（単独×）**という言葉が挙げられ、**適切な時期に適切な教育を継続的に、地域と協力しながら実施することの重要性**について報告頂きました。



雑木林「の」から雑木林「で」！！

パネリスト3名の報告ならびに数多くの参加者からの提案をまとめた上で、コーディネーターの和歌山大学助教授 中島さんからも雑木林をはじめとした自然環境との関わり方について次のような提案がありました。

『従来型の「雑木林の 〇〇を保全する」「雑木林の 〇〇を活用する」といった、特定のものに限定した活動では興味の停滞を招き、予算不足や人手不足に陥る可能性があります。そこで、「雑木林の 〇〇で人づくりする」「雑木林で 〇〇を行う」といった環境自体を**様々なことを行う「場」として解放**することにより、人々が関わることで「場」が持っている価値をあげていくことが重要である。』

このような視点の転換が保全活動に繋がるように視野を広げることも重要だと思います。



おわりに

雑木林活動一つとっても、様々な課題や可能性を秘めていることが、話し合いの中で再確認されました。このような可能性を秘めていることを地域住民で共有し、貴重な「場」を創り上げていきたいと思えます。次回は、達目洞の保全活動現場の視察&保全活動体験会です。

ワークショップへの皆様の参加をお待ちしております！！

自然ふれあい地域ビジョンに関する問い合わせ

岐阜市 人・自然共生部 みどり自然室 担当：吉村

TEL：058-265-4141 FAX：058-267-1374

E-mail：midori@city.gifu.gifu.jp

みどり自然室 HP アドレス：http://www.city.gifu.gifu.jp/splash/midori/index.html